

—いのち、くらし、平和が大事！—

日本共産党京都市議会議員

山本 陽子 活動ニュース

VOL.26 2017年7月23日号

連絡先 日本共産党山科区生活相談所 山科区西野大手先町8-8 ☎595-8342

熱中症に
気をつけて！

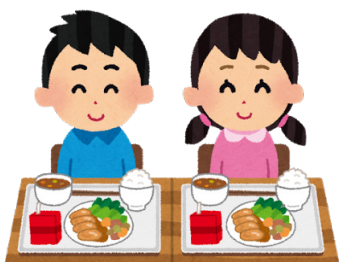
山本陽子
山本陽子
山本陽子



〈7月5日教育福祉委員会質疑〉

中学校給食は、選択できればそれでいい？って……？！

国は2005年に食育基本法を制定し、2007年には児童生徒に対する食生活等実態調査をするなかで、子どもの「個食」や「欠食」、栄養のバランスが崩れて肥満傾向等が見られるなど問題を認識し、2008年に学校給食法を改正。給食は教育の一環であることを位置づけました。

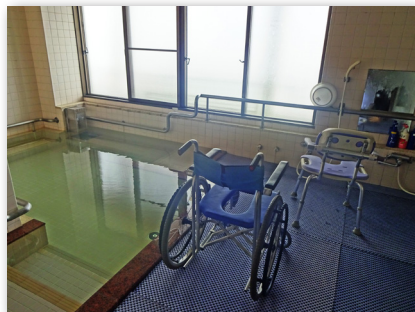


「国が求めている〈学校給食〉とは何なのでしょう？ 京都市の選択制の中学校給食は国が求める〈学校給食〉と言えるのか？」……教育福祉委員会で質疑しました。

これに対して教育委員会は、国の学校給食実施基準は「すべての児童生徒に対して実施されるもの」と規定されていることを説明したうえで、京都市の選択制の給食は「すべての児童生徒が選択可能である以上、国の基準に合致している」と、述べました。しかし、教育は選択できればそれですむのか？ 学校給食法ではさらに10条で、「学校給食を活用した食に関する実践的な指導を行うものとする」「校長は……学校給食と関連づけつつ食に関する全体計画を作成すること」とあります。すべての生徒が享受することを予定していない選択制の中学校給食は、法が定める食育の趣旨に合致するものでないことは明らかです。完全給食の実施に舵をきるべき！と迫りました。



引き続き、中学校給食の実現を求める運動と連帯していきたいと思えます。



現地視察のようす

〈現場視察をして〉

三施設の合築化・一体化はなんのため？

先日、地域リハビリテーション推進センター、こころの健康増進センター、発達障害者支援センター「かがやき」の現地視察に行きました。

京都市はいま、京都市立病院の北側に、上記のうちの2施設、地域リハビリテーション推進センター、こころの健康増進センターに、児童福祉センターを合わせた三施設の合築化・一体化をすすめています。

本来は、それぞれの施設が市民のみなさんにとって、より使いやすいものとして機能することがもっとも重要なことです。しかし、一体化によって、施設の合計面積は減少し、専門家からも三施設合築のメリットは定かではない、と指摘されています。要は、合築できれば、施設の跡地を活用できて、コスト削減がかなう、という理由で一体化構想が進んでいるのではないのでしょうか。

地域リハビリテーション推進センターでは、高次脳機能障害のリハビリ入院も受け入れて装具の修理もしています。しかし視察をした感想として、その役割は十分に発揮できていない、と感じました。また、発達障害者支援センターでは、子どもの発達診断は2年待ちと言われているなかで、支援プログラムを受けることについても待機期間が長くなっています。安定雇用で事業がしっかりすすめられるよう充実させることこそ必要です！ 行政の公的責任の後退をただしていきたいと思います。

ヨコ子の ママチャリ 子育て日記

夏休みを前にして

夏休みを前にして、学校にも慣れてきた一年生の弟君。お友達と元気に遊んで、ケンカもして、目下、たくましく成長しています。ただ、たまに垣間見える繊細な気持ちに、親としてドキツとしたりします。

先日は、「とうとうと、みずと、ゆうと（三人の友達）しか、オレのこと見てくれへん」と言っていて悲しんでいます。今まで、保育園ではたくさんの先生に見守られ、たくさんの友達と交流してきた時間が、小学校にあがってから少なくなってしまったのかな？ 学校の忙しさに、自分の存在が埋もれていく不安を感じているのかな？ 環境の変化に対して自分なりに立ち向かうとしている彼を応援したいと思えます。

一方、三年生のお姉ちゃんは、日曜日は最近いつも仲の良いお友達の家へ一日、遊びに出かけています（お昼ご飯には帰ってきますが）。「お友達と何をしているの？」と聞くと、「ものまねの見せ合いっこ」なんて言っています。カワイイ！でも、目のふちにアイシャドウがついていたりして、親には内緒でお化粧ごっこもしていた（？）ようです。そのお友達とは、「大人になったら、二人で住むねん！」と言っています。少しずつ大人の階段を上がっていく感じですか？

もうすぐ夏休みです。二人ともまた一回りの成長を見せてくれることでしょう。

